



ユリ ‘シベリア’ の夜冷栽培による 生育障害抑制効果

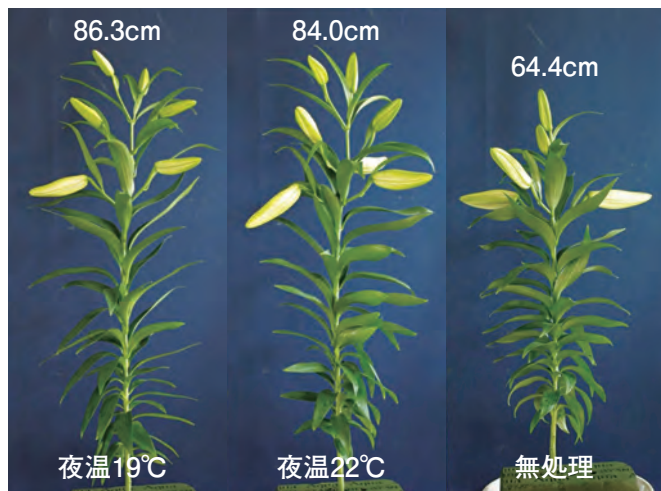


写真1 夜温と‘シベリア’の草丈との関係



正常花蕾

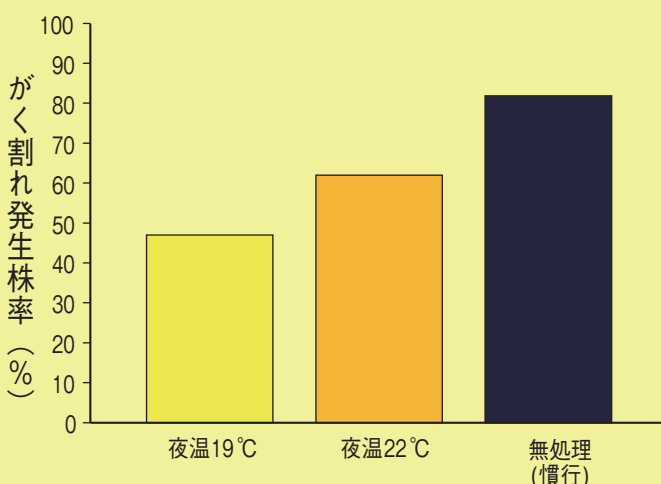


図 夜温と‘シベリア’のがく割れ発生との関係

注) 8月14日に定植し、定植直後から採花終了時まで、21:00～翌朝6:00を所定の温度に夜冷して栽培。無処理区の夜温は9月上旬まで26～27℃で推移。



写真2 程度の異なる様々ながく割れ

オリエンタル系ユリを高温期に定植すると、草丈が短く、がく割れが多く生じて切り花品質が低下します。そこで、重油価格の高騰対策として導入されているヒートポンプエアコンを活かした夜冷栽培が、切り花品質に及ぼす影響について検討しました。

定植直後から採花までの間、21:00までハウス側面を解放して換気し、21:00～翌朝6:00までをヒートポンプエアコンで22℃管理すると草丈が長く（写真1）、が

く割れ（写真2）が少なくなりました（図）。なお、このような夜冷栽培では夜間と早朝にサイドを開閉するため、自動巻上げ機があれば省力化につながります。

今後は、夜冷の時間帯を変えたり、夜温をもう少し高く管理した場合の効果を検討するとともに、がく割れをより少なくする定植前処理（芽伸ばし）方法についても検討する予定です。

（花き担当 二宮千登志 088-863-4918）